



ONGAKU

～ 音 で 笑 顔 に ～

新緑のシーズンです。新しい葉が陽光に輝いて、樹々が瑞々しさを増していきます。枝葉を揺らす薫風も今までとは違った音を立てながら何処へとなく通り過ぎて行きます。鳥たちの囀りも、あちらこちらから聞こえて賑やか。耳を澄ますと遠くからも聞こえてきます。風の音と鳥たちの声が見事に重なり合い、自然が季節のアンサンブルを繰り広げています。自然だけでなく、都会や街の喧噪の中にも、その季節ならではの「音」を感じてみてはいかがでしょうか？

【活動報告】

「すみだNPOフェスティバル」

3月26日（土）・27日（日）にすみだ NPO フェスティバルが開催され、私たち NPO 法人「音」を「楽」しむ ONGAKU の会も参加しました。会場は隅田公園そよかぜ広場で隅田川のほとりのスカイツリーが良く見える場所でした。



26日はあいにくの曇り空でしたが、桜も見ごろで桜の下ではお花見をしていました。各 NPO の活動を紹介するパネル展示のテントの他に、販売や発表のコーナーがあり、私たちは風飛行機の販売・マリカン^①の展示・活動の紹介のチラシ配付を行いました。風飛行機は風にのってよく飛び、見ていた大人も子供も驚いていました。自分のお気に入りの風飛行機を選んで1機だけ買ってくれた子やお孫さんのために何機か入っているのを買ってくださいました。

何人かの人にはマリカンの音を聴いてもらいました。水の音に癒されるとか、不思議な音だという感想を頂きました。

途中販売ブースの前で南米の歌と踊りの発表が始まって、風飛行機を飛ばせなくなり、そのうちに雨が降ってきたので撤収となりました。販売時間が短くなってしまいましたが、スカイツリーと桜と風飛行機がとてもよくマッチして、素敵な景色の中で気持ちよく活動できました。

マリカンは今後、インターネットで購入できるように準備を進めています。

高品質の完成品や自分でカスタマイズできるキットとしての販売も行う予定です。販売できるようになりましたら、お知らせいたします。皆様にご購入していただきたいのは勿論ですが、是非ご友人や知人の方々にもお薦めしていただきたいと思います。

どうぞお楽しみに！



【インタビュー特集③：野村誠さん その2】

インタビュアー：横川雅之

同席者：池田理事長・斉藤副理事長

【曲を演奏する、聴く・・・そこには人が介在する】

野村：作曲家が譜面を書くところまでは、人は全く介在していません。でも演奏するのは人で、聴くのも人で、どういう風に演奏するかで全然違ってしまいます。曲を作る時に、物理的な音響のことも考えますが僕は『人』のことを考えます。それは、大学の時に周りにプロ的な音楽家が全くいなかったという事がとても大きく影響しています。訓練を受けた音楽家だから面白い音楽が立ち上がってくるということもありますが、そうじゃない状態でいろいろな音楽が立ち上がってくるという体験もしました。人がどう関わっていくと音楽がつまなくなったり、生き生きとしたりするんだろうっていうことにすごく興味があります。僕は教育を主眼としてやったことはないんです。人と関わってやっていると、そこで人が代わったり何か変化しているのを見た時に、『あ、教育ってこういう風であったらいいんじゃないかな』を思うことはいろいろあるんです。

池田：限りなく教育者に近いアーティストだね。やっていることは教育だもの。

横川：現代作曲家の人は自分の書きたいことを緻密に書いているけど、そこから先のことも考えたいということですね。そこを考えている所が野村さんたる所以ですね。

野村：つまんなそうに演奏されるのと楽しそうに演奏されるのでは。全然違うじゃないですか。じゃあ何でつまなくなるんだろうとか、楽しそうになるんだろうか。すごく気持ちが入って音を出しているのと全くやる気が無くて音を出しているのとでは、全然違うはずですよ。

【体験から生まれた新たな意識】

斉藤：野村さんには『ダメ』というのが無いんですよ。どんな音を出しても『それいいよ！』っていう所から始めていますね。教育について『何か教えなきゃ』とか『これはダメだ』ではない所が野村さんらしい。

野村：たぶんそれが一番効率がいいというか、理にかなっているから自然にそうなっていると思うんです。要するに『これダメ』っていうのは何かを意識していますね。意識化されることで何かが良くなるかというところ意識し過ぎると、それが良い方に作用するのを経験したことが無いんですよ。ダメって言うと大体それは良い効果を生まない。皆で曲を作っていく時に『これはダメなんじゃないかな』って自分の美意識として思うことはあるんですけどね。

斉藤：え～、あるの？

野村：というか、あったんです。あ～折角これ面白くてコレも面白いのに『あ～これはもったいないなあ』って思った先が面白くなるっていうことがすごく沢山ありました。自分だけだと自分の好きなものだけで埋め尽くしていくけど、いろんな人と作っていく時に、自分があるイメージをもっているけど、それとは違う音が入って来ると『これはダメだろう』と思う。でも、そういうものが入った方がその後に『すごくかっこいい！』って思う事になったりすることがある。もし、全部自分でコントロールできて僕が神の様にやったら、この音楽にはならなかったんだ、と思う。ある意味衝撃だったんです。つまり自分の美意識というものがあって、それだけを集めていけば自分が美しいと思うものができる。そうではなくて『これは好きだけど、これはそうでもないな、これはイマイチ…』というのが合わさった時に『これはメチャメチャいい！』って思ったんです。

—こうして野村さんは『自分の価値観でいいと思う物だけを集めてもそれは自分にとって最高のものではない』ということを強く思い知る事になりました。



池田：野村さんからのアドバイスで『いいね、いいね、君いいね』って言われて悩んでいる時もそう言われるとストーンと落ちるということもありました。

斉藤：私は音楽にコンプレックスがあったんです。音楽は全然できないと思ってたけど、子どもと一緒に作った時に『面白い！』って思うと同時に『あっ、これでいいんだ！』と思えたことがありましたが、それは野村さんと一緒に曲を作った時に分かった事です。綺麗に出来上がっているものが音楽だって刷り込まれていたから、あれで人生観が変わりました。

横川：著書にも書いてありましたが、『この先どうなっていくのか分からないのが音楽』というくだりがありました。そういった所に価値を見出したんですね。

野村：自分が作っているものの中に自分が好きなものだけを入れちゃいけない。自分が好きだというものだけで埋め尽くしたら行き詰まると思うんです。自分が嫌だと思うものもその中に入れることで、もっと自分が好きな世界が広がる。自分の価値観から外れるものを排除していこうとすればピュアに自分の価値観が築き上げられる。でも人と一緒に曲を作っていて感じたのは、自分がこれは嫌だというものを排除していたら世界が小さくなる。『こうしたら合うかも、こうやったら合うかも』って互いにやっていると、断然大きな世界に膨れ上がっていくんです。そこには、いろいろな人のいろいろな好きが存在して、それが混ざり合っているんです。そうやって出来上がっていくものが好きだったんです。

斉藤：そう。人によって違ったものが出てくるから面白いなって思う。人がもっているものを引き出そうとしていますね。私も体験で分かりました。

野村：だから一人で作曲するにも自分の価値観的にはノーというものも書くようになりましてね。だってその方が広がるんだったら、この音は違うんだけどなと思いつつ取り敢えず書き入れてみる。そうすると広がったりするんです。

【音を聴くこと… そしてこれから】

横川：さて、私達の活動では『音を聴く』ということを大切にしています。音を聴くということについてどんなお考えがありますか？

野村：20世紀後半、ロックやジャズもそうだけどレコードが出現して音楽を演奏するという行為から取り外して、音質とか音のことについて特化してこだわることになって、それを意識化した時代となった。それまでの作曲家はそういう意味で音を聴くということとはあまりなかったと思う。ジョン・ケージなどが環境の音を扱ったり、いろいろな物で楽器を作る人も出てきますね。そういう音を聴くことに特化する音楽自体をこの70年位の間はすごく突き詰めてやっている。それを音楽教育でやりましょうという人も出てきて、このNPOの理事の方々が第一世代としてやっていますが、いずれ当たり前になるでしょうね。そういう活動自体が新しいから、音楽教育の中で新しい仕組みを作っていくようになるのかな。

横川：単なる音を扱うことも野村さんはやっていますよね。タオルから滴り落ちる水の音とか。

野村：20世紀半ば以降は当たり前になったんですね。クリスチャン・ウォルフの『石の音楽』があって、石で演奏しましょうというものがあり、いろいろあるんです。楽器じゃない物を扱うことも当たり前ですね。少なくともベートーヴェンの時代にはそれを音楽とは認識されていないですね。NPO講師の皆さんが『音楽って何だろう？』と突き詰めていった結果、こういう事になったというのはすごくよく分かる。音楽って別に西洋だけじゃないし、いろいろな音楽があるわけですから。

池田：でも、音楽の先生はそうは扱えないんだよね。せっかく子どもが音で表現しているのに。僕たちは『え？君そうやるの？！いいね、それ！』って言ってますが。

横川：子どもを褒めるのも指導技術って言うけど、指導で褒めるんじゃないって『本当にすごいね！』って思うし、子どもの表現に圧倒されますね。

野村：技術として褒めたりしないですよ。本当にそれがいいと思うから褒めますね。子どもはいろんな事をするけど、くだらないことを『いい！』って思うのは大事な事ですよ。それって勇気が要りますよ。くだらない事も堂々と思いついてやれるようでありたい。

横川：著書の中に『アホになる』っていうのもありましたね。

野村：そうです。そこに徹することができれば、くだらないことを乗り越えるじゃないですか。そこを突き抜けるかどうかという所って勇気がいる所ですね。

横川：今後の方向性や楽しみ、展望があったら教えてください。

野村：具体的な展望はないですが、まだ会っていない人との出会いが楽しみだし、若い人達がどんどん新しいことを始めるんだろうなと思っているので、僕たちが出来ない何かをこの世の中でやっていくんだろうなと思っています。それがつまらないかも知れないけど、こっちが古くなってしまっているだけの事で…。そういうものに出会えた時に、それこそ『いいね！』って言えたらいいなと思います。僕が『こんなんじゃないんだよ』と思うことを突きつけられて、『いや待てよ、これが面白いかも…』みたいになることですね。そういう出会いがあるといいなと思っています。

横川：野村さんの今後にも期待しています。本日はありがとうございました。

【今後の活動予定など】

～ご参加などについては、本会事務局までご連絡ください～

★江古田の杜：おひさまリトミック

- ・6/19 (日) ①10:00～10:40 ②11:00～11:40
- ・7/14 (木) 11:00～11:40
- ・7/17 (日) ①10:00～10:40 ②11:00～11:40
- ・パパと遊ぼう 7/31 (日)

★遊びと芸術創造協会・夏の研修会 なかのサンプラザ

- ・7/30 (土) 10:30～12:30

★民音ワークショップ・キッズプログラム (東京都北区)

- ・8/11 (木・祝)

★音を楽しむONGAKUの会 コンサート 墨田区・本所地域プラザBIG SHIP

- ・8/20 (土) 10:30～12:00

◆その他の予定については今後決定するものもあります。ホームページをご覧ください。

< 賛助会員を募集しています！ >

本会の活動は殆ど全て会員の皆様の会費で賄われています。本会の事業の趣旨に賛同し、ご支援していただける方は、是非賛助会員になってください。現会員の方は、お知り合いの方などにお声をおかけください。賛助会員になってくださる方（または誘ってくださった会員の方）は、まず下記の事務局までご連絡ください。

賛助会費は、年間3000円です。よろしくお願い致します。

< 振 込 先 >

- | |
|--|
| ① ◆三菱UFJ銀行 向島支店 ◆口座番号：普通 0088065
◆名義名：エヌピーオーウハウジンオトヲタノシムオンガクノカイ |
| ② ◆ゆうちょ銀行 ◆口座記号：10090 口座番号：18396671
◆加入者名：トクヒ) オトヲタノシムオンガクノカイ |

NPO法人 「音」を「楽」しむONGAKUの会

〒131-0032 東京都墨田区東向島2-34-12 サニーフラット202号

PHONE & FAX：03-3610-2292

E-mail otoiawase@oto.or.jp

URL：http://www.oto.or.jp/

facebook：https://www.facebook.com/ototano/